

《40回記念展》

全国公募南九州水墨画展 40回記念回顧 『墨画—松下美術館の軌跡』展

南九州水墨画展の第40回展開催を記念し、全国公募南九州水墨画展記念回顧『墨画—松下美術館の軌跡』展を開催しました。

本展では、近年の南九州水墨画展において受賞された作家の作品を紹介し、水墨画の持つ多様な表現と魅力を伝えるとともに、南九州水墨画展が歩んできた歴史を振り返る機会となりました。

【展覧会期】

令和7年7月8日(火)～7月13日(日) 鹿児島市立美術館 一般展示室1 (公募展・記念展同時開催)

令和7年7月23日(水)～7月27日(日) 都城市立美術館 市民ギャラリー

令和7年8月19日(火)～8月31日(日) 霧島市役所国分庁舎1階ロビー (公募展・記念展同時開催)

【後援】 鹿児島県、霧島市、霧島市教育委員会、鹿児島県文化協会、南日本新聞社

出品作品は、南九州水墨画展の第30回から39回展までの入賞者の中から、本展の趣旨にご賛同いただいた方々の作品に加え、長年にわたり南九州水墨画展にご尽力いただいている4名の特別功労賞受賞者の作品、ならびに審査員の先生方による特別出品作品で構成し、合計52名、53点を展示しました。

青森県から鹿児島県まで全国各地からご出品いただき、各回の最高賞受賞作品7点を含む、充実した展示内容となりました。

また、例年南九州水墨画展(公募展)の会場として使用している鹿児島市立美術館、松下美術館、霧島市役所国分庁舎一階ロビーに加え、今回は初めて宮崎県の都城市立美術館において巡回展示を実施しました。松下美術館の所在する鹿児島県霧島市に近接する都城市で開催したことにより、南九州水墨画展を知っていただく機会が広がりました。なお、鹿児島市立美術館、霧島市役所国分庁舎1階ロビーでは、公募展と記念展を同時開催しました。



鹿児島市立美術館 会場入口



鹿児島市立美術館 展示



都城市立美術館 外観



都城市立美術館 展示



霧島市役所国分庁舎 1階ロビー 展示



芝龍郎先生 追悼展示

40回記念祝賀会

7月13日(日)、鹿児島市立美術館において表彰式を執り行い、終了後の13時から、城山ホテル鹿児島にて記念祝賀会を開催しました。

祝賀会には、水墨画展出品者の皆様やご家族をはじめ、審査員の先生方、ならびにご後援を賜っている関係各位にご臨席いただきました。

【御来賓】霧島市長 中重真一様 南日本新聞社事業部長 内立元正嗣様

国分進行堂社長 赤塚恒久様・赤塚悦子様 水墨画展出品者とその関係者の皆様29名

祝賀会の冒頭では、館長の松下兼介より、南九州水墨画展発足当時のことや、前館長の意志を引き継ぎながら今日まで公募展を継続してきた経緯、またパリで開催した第20回記念展の思い出が語られました。第40回展という節目を迎え、本公募展が出品者の皆様にとりましてよい刺激となり、ここから新たにすばらしい画家が誕生することを願っているとの挨拶がありました。結びに、故・芝龍郎先生へ追悼の意を込め、ヒポクラテスの言葉「人生は短し、しかれど芸術は永し」が捧げられました。



館長 松下 兼介



会場では、南九州水墨画展のこれまでの歩みと、昨年ご逝去された芝龍郎先生の足跡を振り返りながら映像を上映しました。創設当初の貴重な記録や本展水墨画の歴史とともに、先生が審査や講評をされる姿が映し出され、皆様は在りし日のご指導を懐かしみながら、そのご功績の大きさをあらためて心に刻まれていました。

また当日は、出席された出品者の皆様に一言ずつスピーチをお願いし、それぞれが水墨画との関わりや制作への思い、今後の抱負を述べられました。

会の中では、長年にわたり展覧会を支えてくださっている今岡琴子先生、故・芝龍郎先生をはじめ関係者の皆様へ、改めて感謝の意をお伝えしました。本展が多くの方々の支えのもとに築かれてきたことを実感する機会となりました。

このように祝賀会を通して、出品者同士の交流が深まり、本展の意義をあらためて感じるひとときとなりました。



感謝状贈呈



御来賓の皆様と審査員

左から審査員 谷口雄三先生 今岡琴子先生 霧島市長 中重真一様
松下兼介館長 審査員 松下兼宗 南日本新聞社事業部長 内立元正嗣様
審査員 大谷喜郎先生 石川千佳子先生 国分進行堂社長 赤塚恒久様

今後も南九州水墨画展が水墨画の魅力を広く伝える場として発展していくよう、関係者一同力を尽くしてまいります。

第30回から第39回展までの入賞作品を収録した「40周年記念画集」を発刊しました。10回展ごとの節目に制作しており、本画集は4冊目となります。記念画集は松下美術館にてご購入いただけます。